

ボルネオ従軍元豪兵士→府中市・井上さんの手元に

寄せ書き日章旗 松田さんどしに



義弟から託された日章旗を手にする井上拓也さん＝府中市高木町

松田芳雄さんを知りませんか？ 府中市高木町のデザイン事務所経営、井上拓也さん(34)が、オーストラリアから持ち込まれた日章旗の持ち主を捜している。戦時中のもものとみられ、毛筆の「武運長久」の文字と23人の寄せ書き。井上さんはフェイスブックで情報提供を呼びかけている。

日章旗の大きさは、縦約60センチ、横約1.1メートル。右端に「為松田芳雄君 武運長久」と、井上さんの義妹の夫でオーストラリア・メルボルン在住の松田芳雄君「祈武運長久」と

マイケル・サリバンさん(29)が持つてきた。



マイケル・サリバンさん＝井上拓也さん提供

由来語らずに死去

旗はマイケルさんの友人の父が保管していた。「手にした由来も語らずに父が亡くなってしまった。飾るわけにもいかないのです、元の持ち主か、せめて日本に返して」と友人がマイケルさんに託したという。

ネットで情報募る

マイケルさんによると、友人は「東南アジアのボルネオ島に父がいたらしい。旗はそのときに日本人捕虜から没収したのではないか」とも話していた。マイケルさんがすぐ帰国しなければいけなかったため、井上さんが持ち主捜しを買って出た。「せっかく日本に帰ってきた旗をまた戻すわけにいかない」

フェイスブックで協力を呼びかけると、知人らがインターネットなどで集めた情報を寄せてくれた。

「松田芳雄」という名の新潟県出身の陸軍上等兵が、1943年12月に南方で戦死した

らしい」

帝大研究者の名も

「寄せ書きにある永井雄三郎、稲葉弥之助、櫻井善三郎の3人の名が1938年4月23日付の東京日日新聞の記事に載っている」

記事によると、永井氏は(東京)帝大航空研究所化学部の博士で、稲葉、櫻井両氏は助手。大豆や鯨の油から航空機用潤滑油の精製に成功したという。

井上さんは推測する。松田さんは同研究所の関係者。ボルネオ島には油田があるし、日章旗の汚れも少ない。研究者として戦地に赴いた人ではないか。

和歌山・高野山の北ボルネオ戦没者慰霊塔を管理している元兵士を探し、名簿などで調べてもらったが、そこに「松田芳雄」の名はなかった。

井上さんは「不思議な使命感を感じる。できれば松田さんの親族に手渡したい」と意気込む。

今後は、帝大の当時の名簿などがないか、探ってみるつもりだ。

(橋本弦)

明光に界空航

鯨が飛行機を操縦

動物油を礦物質化へ更生

永井博士偉大な成功

日章旗にある「永井雄三郎」「櫻井善三郎」「稲葉弥之助」の名前が出てくる1938年4月23日付東京日日新聞の記事＝神戸大学経済経営研究所新聞記事文庫所蔵